

2021(令和3)年

2月11日

木曜日

南日本新聞

朝日新聞

差別のない世界へ

西伊敷小5年

福德 華林

今問題になっている男女差別発言について、みなさんはどう思いますか。

東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が差別発言をしたという報道に、私はとても残念に思いました。

自分の考えを伝えることは大事だと思います。しかし、自分の発言によって相手がどのように感じてしまうのかを考えな

かったことが原因ではないかなと思いました。今回のニュースだけでなく、普段の生活の中でも男女差別を感じるような場面はあると思います。私は「男らしく、女らしく」ではなく、「自分らしく」生きていくことが大切だと思います。一人一人が自分らしさを大事にし、相手の考えや気持ちも尊重しながら生活するのがいいと思います。(鹿児島市)

鋭い感性と卓越した表現力

リサイクル半世紀 最優秀校

環境美化教育で鹿児島市立西伊敷小



表彰状を手に受賞を喜ぶ末吉呉斗君(中央)ら112日、鹿児島市西伊敷4丁目の西伊敷小、知覧哲郎撮影

開校以来、半世紀近くリサイクル活動などに取り組んでいるとして、鹿児島市立西伊敷小学校が、飲料業界団体でつくる食品容器環境美化協会(東京)が主催する「環境美化教育優良校等表彰事業」の最優秀校・文部科学大臣賞に選ばれた。活動を通して子どもたちの意識が広がりをみせたことも評価された。事業は全国の小中学校が対象で今回で21回目。都道府県から推薦された31校中4校が最優秀校に選ばれた。県内の学校の最優秀校受賞は初めて。同校は1974年の開校時から、児童会の主導で地域を巻き込んだアルミ缶や新聞紙、段ボールなどの資源回収を続けてきた。2004年からは、物資不足に悩むアフガニスタンの子どもたちに使わなくなったランドセルを贈るプロジェクトに参画。これまでに約800個を届け、資源回収で得た収益をその送料などに充てている。審査では「児童の環境への意識はSDGs(持続可能な開発目標)に向かい、地球規模で考える素地を養っている」と評価された。同校で2日、オンラインの表彰伝達式があり、表彰

祝

状を受け取った児童代表で美化・環境委員長の末吉呉斗君(6年)は「全国に認められてすごくうれしい。後輩たちにつなげて西伊敷小の歴史ある伝統として残していきたい」と喜んだ。石塚宏志校長(69)は「地球規模で考え、足元から行動する」が同校の環境教育のモットーと説明し、「海洋プラスチックごみ問題などSDGsを意識した授業計画も検討したい」と話した。(ライター・知覧哲郎)

R3.2.9